

中国語話者が母語の知識を活かすための文法記述試論

—すでに起きた出来事を表す「ト・タラ」を例に

李泓璋

◆要旨

中国語を母語とする日本語学習者はすでに起きた出来事を表す「ト・タラ」が適切な文脈において「テ形」や「トキ」を多用し、「ト・タラ」の非用が目立つ。本稿では「母語の知識を活かした日本語教育」の観点から「ト・タラ」とそれに対応する中国語の対応関係（対応率）を考察した結果、中国語を母語とする日本語学習者が「ト・タラ」を産出する際、母語の知識をそのまま活用しても約97%の対応率が得られたことが確認された。そして対応関係の結果に基づき中国語を母語とする日本語学習者に対する指導上の提案を行った。

◆キーワード

「ト・タラ」、母語の知識を活かした日本語教育、対照分析

◆ABSTRACT

Chinese-speaking Japanese learners tend to use *-te* form and *-toki* clause in contexts where *to/tara* is appropriate. In this paper, I tried to clarify the correspondence between *to/tara* and its counterparts in Chinese so as for Chinese learners to use *to/tara* properly based on their knowledge of Chinese. It was found out that there is high correspondence (97%) between *to/tara* and its counterparts in Chinese. I also propose some teaching methods to enable Chinese-speaking Japanese learners to use *to/tara* more easily and properly.

◆KEY WORDS

to/tara, learners' knowledge on their mother tongues, contrastive analysis

An Essay on “Use of the Learners’
Mother Tongue (Chinese)
in Japanese Learning”
Using “*to/tara*” as an Example
LEE HUNGWEI

1 はじめに

中国語を母語とする日本語学習者（以下、中国語話者）は、(1) のように「すでに起きた出来事を表す「ト・タラ」^[註1]（以下、「ト・タラ」と略す）が適切な箇所「テ形」を用いることがよく指摘されている（渡邊 1996, 砂川 2017 など）。また、「トキ」を使用することもよく見受けられる（(2)）。

- (1) a. 公園でサンドイッチを食べたいですから、バスケットを開けて、突然、犬が現れました。 (I-JAS, CCM18)^[註2]
b. (他們) 想在公園吃三明治，打開籃子，突然有一隻狗出現。
- (2) a. バスケットを開けるとき、犬を見つけました。 (I-JAS, CCM52)
b. 打開籃子時，發現一隻狗。

(1a) では「突然」という副詞を使ってその出来事が予想外の急に発生した出来事であったことを表しているが、「テ形」を用いると不自然な文になる。(2a) は「トキ」を使っても非文にはならない。しかし、意外性や驚きを伴う後件の出来事が起こったという展開を表す場面で「トキ」を使うと、単に時間関係を表すことになり、意外性を表すことができない（砂川 2017）^[註3]。中国語話者が「ト・タラ」のほうが適切な箇所「テ形」や「トキ」などを使う傾向があるのは母語の影響が考えられるという指摘もある（園部 2013）。(1a) (2a) を中国語に訳した (1b) (2b) を見ると、中国語では「ト・タラ」と一対一で対応する形式がなく、(1b) のように接続助詞が必要でない場合もあれば、(2b) の“時”のように「トキ」を表す形式を用いて前件と後件をつなぐ場合もある。

そこで、本稿は「母語の知識を活かした日本語教育」の観点から中国語がどのような場合に「ト・タラ」に対応するかを考察することを主な目的とする。「母語の知識を活かした日本語教育」とは、学習者の母語と日本語との対応関係を正確に調べ負の転移が起きる環境を把握することにより、正の転移を活かした効率的な文法教育を行うことを指す（庵 2017）。中国語がどのような場合に「ト・タラ」に対応するかを解明することによって、中国語話者が母語の知識

を活かして「ト・タラ」を産出することができるようになると思う。

2 先行研究

2.1 「ト・タラ」の性質と機能

「ト・タラ」について分析したものとして、豊田氏の一連の研究（豊田 1978, 1982 など）と蓮沼（1993）、前田（2009）、宮部（2017）^[註4] などがある。用語に多少の違いが見られるが概ね以下のような3用法となる（(3) ~ (5)）^[註5]。

- (3) 発見：前件の行為によって後件の事態が認識される用法である。
窓を {開けると / 開けたら} エーゲ海が目の前に見えた。
- (4) 発現：「発見」と同様の用法であるが、前件の述語が継続相となる。
見上げて {いると / いたら} 空から財布が降ってきた。
- (5) きっかけ (反応)：前件の動作などに反応して後件の事態が起こる。
健ちゃんがかえるを {つかみあげると / つかみあげたら} かえるはにげようと思いました。

((3) (4) は蓮沼 (1993)、(5) は豊田 (1982) による)

上記の3用法に共通する特徴として「新たな状況における新たな認識の成立」が認められる（蓮沼 1993）。また、「ト・タラ」における前件と後件の時間関係が「先-後」という関係にあり、後件では新たな展開が生まれることを予想させる形式と言える。また、「ト・タラ」は「すでに起きた出来事」を表し、基本的に「前件と後件が異主体」である。後件には前件の主体がコントロールできない事態が来るため、「ト・タラ」を使って話者が体験した事態に対する「意外性」という心的態度を明示することができる（蓮沼 1993, 加藤 2003 など）。例えば、(6a) は後件が話者のコントロールできない事態を表し「意外性」を表しつつ話の展開を語っている。同じ事態でも「テ形」を用いて描写する (6b) を、「タラ」が使われている (6a) と比較すると、(6b) では「それは意外だ」という含意が表示されず、予定調和的な動作の連続に聞こえる（加藤 2003）。

(6) 車掌さんに「スリ見ました」って {a.言ったら／b.言って} (中略)「車掌室に来てください」って言われて車掌室に行っただけです。(加藤2003)

2.2 「ト・タラ」の日中対照に関する記述

「ト・タラ」と中国語の対応関係について調査した研究には中島(2007)、李(2011)、李・張(2013)や李・鄒(2015)などが挙げられる。これらの先行研究はいずれも日本語の小説と中国語の訳本を用いて「ト・タラ」に対応する中国語の表現を(7)のようにまとめている。

- (7)「ゼロ形式」: 接続表現なしに前件と後件を「,」でつないでいる
 「(ゼロ形式+) 知覚動詞」: “看”(目に入る), “发现”(発見する) など
 「一…就…」: 前件と後件の近接的関係を示す形式
 「時・后・完」: 日本語の「とき」及び「あと」に近い表現

これらの先行研究は対訳のある小説を用いて「ト・タラ」における日中対応関係を調べているが、その研究結果はそのまま日本語教育の現場に適用できるとは言い難い。なぜなら、日本語の「A」という形式が中国語の「B」という形式に対応しても逆は必ずしも成り立つとは限らないためである。特に中国語話者に対して、中国語の「B」という形式を使って出来事を表現しようとする際、日本語の「A」という形式を使えばいいと言うためには、中国語の「B」が常に日本語の「A」に対応するかどうかを検証する必要がある。具体的な研究手法は次節で示す。

3 研究手法

母語知識を活かした日本語教育の観点から行われた研究に庵(2015)や李(2019)などがある。李(2019)では「(よ)うとする」の日中対応関係に基づいた、中国語話者に特化した「(よ)うとする」の文法記述が示されている。本稿では李(2019)で提案されている研究手法(図1)を踏襲し、「ト・タラ」の日中対応関係を明らかにし、「ト・タラ」の産出につなげる記述を試みる。

- 手順1 「ト・タラ」に対応する中国語の表現の特定(4節)
 手順2 中国語からの逆向きの検証(5節)
 手順3 非対応例の検討(6節)
 手順4 指導上の提案(7節)

図1 研究手法(李2019:54の図1を修正)

手順1では原文が日本語の小説とその中国語訳を対照し、「ト・タラ」に対応する中国語の表現のバリエーションを考察する。次に手順2では、中国語から日本語を見ることによって対応関係を検討する。具体的には中国語が原文の小説とその日本語訳を用い、手順1で導かれた中国語の表現が「ト・タラ」に対応するかを検証する。つまり、手順1とは逆の手法で対応関係を検討する。手順2で用いた中国語の表現が「ト・タラ」に対応する場合は、当該中国語の表現は常に「ト・タラ」で表現できるということになる。手順3では非対応例は本当に「ト・タラ」で表現できないか、あるいはその訳された日本語の表現は「ト・タラ」の形式とどのように異なるかを考察する。手順4では対応関係の結果に基づき、中国語話者のための記述を考案する。

4 手順1——「ト・タラ」に対応する中国語の表現

本稿は先行研究の分類を踏襲し、「ト・タラ」を表1のように3分類する。手順1では原文が日本語の小説(4冊)とその中国語訳を用いる。日本語が原文の小説から「前件と後件が異主体」かつ「すでに起きた出来事」を表す「ト・タラ」を取り出し、中国語の訳本からそれに対応する中国語の表現を収集した。その結果、「ト・タラ」に対応する例は合計で771例観察された(表1)。表の()内はその行の合計に対する割合(%)を表す。

表1 「ト・タラ」に対応する中国語の用例数による集計

		中国語 表現					
		① “時” 節	② “一…就…”	③ ゼロ形式	④ 知覚動詞	⑤ 意外性副詞	合計
用法	発見	47 (13.09)	82 (22.84)	112 (31.20)	84 (23.40)	34 (9.47)	359 (100)
	発現	17 (30.91)	1 (1.82)	21 (38.18)	8 (14.55)	8 (14.55)	55 (100)
	反応	33 (9.24)	56 (15.69)	235 (65.83)	0 (0.00)	33 (9.24)	357 (100)
合計		97 (12.58)	139 (18.03)	368 (47.73)	92 (11.93)	75 (9.73)	771 (100)

①“時”節とは日本語の「～とき、～」に当たる表現である。②“一……就……”は「～と、(すぐ)～」に当たり、前件と後件の事態が時間を置かずに生起する場合に用いられるものである。③ゼロ形式は接続形式なしに前件と後件をカンマでつなぐものである。④知覚動詞は③ゼロ形式の後件に“發現”(発見する)といった知覚動詞を用いて前件の主体が後件の事態を認識・発見したことを表すものである。⑤意外性副詞は③ゼロ形式の後件に“竟然”(意外にも)といった副詞を使って後件の事態が話者にとって意外であることを表すものである。①と②を有標形式、③～⑤を無標形式とみなす。有標形式は全体の約3割を、無標形式は約7割を占める。以下の考察では、まず有標形式の例を見る。

4.1 ①“時”節

“時”節は“時・的時侯”、“後・以後”といった、日本語の「トキ」と「アト」に相当する形式が使われるものを指し、後件の事態が認識された時間を明示的に示す際に用いられる(8)。これらの表現を総称して“時”節と呼ぶ。(8)では継続的な動作(着替える)が存在している状況で後件の事態の発生(物音がする)が認識されたことが表されている。日本語では「ト・タラ」が使われているが、中国語では“時”を用いて前件と後件の時間関係を示している。2.1節で述べたように、「ト・タラ」の前件と後件の時間関係は「先一後」という関係にある。中国語でも後件の事態がどの時点で認識されたのかを、展開を示す形式として“時”節で示す場合がある。

(8) 二階の部屋で着替えをしていたら、窓の下で物音がした。 (ナ) [注6]
他在二樓的房間換衣服時，聽到窗戶下面有動靜。

4.2 ②“一……就……”

“一……就……”とは、前件と後件の事態の発生が時間を置かずに継起する場合に用いられる表現である。基本的に“一”は前件、“就”は後件に出現する(9)。

(9) トマト畑から帰ってきて引き戸を開けたら、ベしゃんこになったバツタがぼろりと落ちてきた。 (き)

從番茄田回來，一推開拉門，就有一隻被壓扁的蚱蜢啪地掉了下來。

(9)は「開ける」という動作の前に“一”が用いられ、後件の冒頭に“就”が使用されることで前件と後件の事態が時間を置かずに継起することを表している。“一……就……”は“時”節と同様に前件と後件の時間関係を示す表現であるが、前件と後件の接近性を強調する点で“時”節と異なる。

4.3 ③ゼロ形式

ゼロ形式とは、接続表現なしに単に2つの出来事を生起順に並べて「,」(カンマ)でつなぐものである(10)。(10)は前件の主体が「どうしたの」と質問し、後件の主体が「別に」と答える場面を描写するものである。日本語では「ト・タラ」を用いて異主体による前件と後件の事態をつないでいるが中国語では「ト・タラ」のような接続助詞に該当するものが使用されていない。中国語の複文は文中に「,」(カンマ)があれば1種のパラタクシスを構成することができる。これは「意合法」と呼ばれ中国語においてよく見られるものである。

(10) 「どうしたのって訊いたら、別になんでもないっていうの。」 (ナ)
「我問他怎麼了，他說沒什麼。(後略)」

4.4 ④ゼロ形式+知覚動詞

知覚動詞は話者が何かを認識・発見したという心的態度を示すもので、“發現”や“看到”などがあり日本語の「気づく」や「目に入る」に相当する(11)。(11)では後件の「貼りがはがされていた」という事態が認識されたことが示されている。日本語では話し手の認識状況が表される前件と認識された事態が表される後件を「ト・タラ」でつなぐのに対し、中国語ではこのようにゼロ形式の後件に「知覚動詞」を用いて話者の認識を表す場合がある。

(11) ちらりと自販機を見たら、あの貼りがはがされていたから(後略)(き)
往自動販賣機瞄去，發現貼在上面的傳單已經被撕下了

表現①～④は2.2で挙げた先行研究の記述と同じ結果となっている。今回、手順1で調査した結果、⑤意外性副詞も「ト・タラ」に対応することがわかった。

4.5 ⑤ゼロ形式+意外性副詞

意外性副詞とは、話者にとって認識された事態が意外であるという心的態度を表す副詞であり、“竟然”（意外にも）などの表現を指す（(12)）。（12）では素直に謝ってもらえると思っていたが相手が開き直ったという、話者が後件を意外な事態として捉えて言語化している。中国語では（12）のように意外性副詞を用いない限りその事態が意外であることを表現することができない。

(12) 廊下に連れ出し、問い詰めると、下村は開き直った様子でこう言った。
(告)

我把下村拉到走廊上質問，他竟然目中無人地说…（後略）

表1からわかるように「ト・タラ」に対応する中国語は2つの事態を時間の発生順に並べてさしだす③ゼロ形式が最もよく使われる。そして④知覚動詞や⑤意外性副詞を加えることで話者が何かを認識したことや意外である話者の心的態度を表すことができる。①“時”節は「前件と後件の時間的關係を表す」形式となる。前件と後件の事態の接近性を表す②“一…就…”も前件と後件の時間的關係を表す形式であり、2つの事態の接近性を強調する機能がある。

5 手順2——中国語からの逆向きの検証

ここでは中国語が原文の小説（7冊）と日本語訳本を用いて表1の中国語の表現が「ト・タラ」に対応するかを検証した。用例は原文が中国語の小説から、①～⑤が使われている文を特定し、その中から「ト・タラ」のように「前件と後件が異主体」かつ「すでに起きた出来事」の用例を採集した。中国語にはゼロ形式があるため、用例はすべて目視で集めた。その結果、全部で1992例が観察され（表2）、そのうち「ト・タラ」に訳される例が1500例あり、訳されていない例が492例ある。表の（ ）内はその列の合計に対する割合を表す。

表2 中国語の表現と「ト・タラ」との対応・非対応の用例数による集計

中国語	日本語			「ト・タラ」に対応		非対応	全用例数
	反応	発見	発現	合計	合計	合計	
①“時”節	73	26	16	115 (51.80)	107 (48.20)	222 (100)	
②“一…就…”	105	42	0	147 (92.45)	12 (7.55)	159 (100)	
③ゼロ形式	642	344	42	1028 (80.89)	243 (19.11)	1271 (100)	
④知覚動詞	0	105	3	108 (65.06)	58 (34.94)	166 (100)	
⑤意外性副詞	42	50	10	102 (58.62)	72 (41.38)	174 (100)	
合計	862	567	71	1500 (75.30)	492 (24.70)	1992 (100)	

原文が中国語の小説から収集した表現①～⑤が「ト・タラ」に訳されていれば、表現①～⑤と「ト・タラ」は対応しているといえる。表2に示されているように、「ト・タラ」における両言語の対応率は約75%である。これは「ト・タラ」と同様の文脈において表現①～⑤が75%の割合で「ト・タラ」と対応するということである。中国語話者が母語について持っている知識をうまく活用すれば、「ト・タラ」を正しく運用できることも意味する。75%は決して高い対応率ではないが、ここでの対応率はあくまでもデータ上の対応率であり、すべての非対応例が「ト・タラ」で表現できないわけではないため、手順3の作業が必要である。

6 手順3——非対応例の検討

本節では「ト・タラ」に対応しない例の中で「ト・タラ」に置き換えられるかを確認する。まず、置き換えられない(13)(14)を見る。次に(15)を用いて「ト・タラ」に置き換えられるものについて述べる。(13)～(15)の「a」は原文の日本語訳、「b」は筆者が「タラ」に書き換えたものである。

- (13) 快走到廁所的時候，突然聞到一股非常特別的氣味。 (天)
トイレまで {a.もうすぐのところ／b.*来たら}、突然、変な匂いを嗅いだ。
- (14) 我回夜市顧店、學著他們搖飼料盒叫「貓咪呀」，貓卻始終沒有出來。(天)

店番に来ていたぼくは兄貴に倣って、えさ箱を揺らしながら「にゃーちゃん」と {a.呼んでみたけど / b.*呼んでみたら}、猫は出てこない。

(13) の中国語は“時”節が使われており、日本語では「もうすぐのところ」と訳されている。原文の中国語を見ると述語“走到”(来る)の前に“快”(もうすぐ)という表現が使われている。つまり、(13)は「行く途中」という意味になるのである。そのため、(13b)のように「来たら」に変えると「来る」という事態が完結したということになり意味が変わる。よって「ト・タラ」を用いるのは不適切である。次に(14)は前件の事態から予想される結果と反対のことが後件で表されており、日本語では「けど」と訳されている。(14)では「ト・タラ」は「新たな認識の成立」という展開を表す形式である。(14a)のように「予想に反した事態が起きる」という文脈では「が/けど」といった表現のほうが適切である。一方、上記以外の、対応しない493例の中で「ト・タラ」に置き換えられる例が数多くある((15))。(15)は中国語も日本語訳も“時”(トキ)であるが、(15b)のように「開けたら」に置き換えられる。違いとしては砂川(2017)で指摘されているように「トキ」の場合は時間が焦点となる。

(15) (前略) 出去那扇小小的木門的時候, 天色竟然已經黑了。 (天)
小さな木のドアを {a.開けたとき / b.開けたら}、空はもう真っ暗だった。

非対応例(492例)のうち、(13)(14)のように「ト・タラ」に置き換えられないものは54例、(15)のように置換可能なものは438例ある。置換可能な例を対応例とみなし、改めて対応率を計算すると、対応率が約97.29% ((1500+438)/1992)になる。前述した通り、ここで言う対応率は「前件と後件が異主体」及び「すでに起きた出来事」の文脈において中国語の各表現が「ト・タラ」に対応する割合である。言い換えると中国語話者が母語について持っている知識を活かせば、効率よく「ト・タラ」を習得することができることも意味する。「前件の事態が未完了」((13))と「後件が予想と食い違う事態」((14))のものにさえ気を付ければ、「ト・タラ」は難しくないとと思われる。

7 手順4——指導上の提案

6節の結果からわかるように「前件と後件が異主体」と「すでに起きた出来事」という文脈において「ト・タラ」と中国語の表現(表2)は高い対応率を示している。よって中国語の例文を用いて説明することは、中国語話者にとって、わかりやすく効率的に学習することができると思われる。本節では「ト・タラ」の相違について本稿の立場を示し、教える際に提示する例文と留意点について述べる。

7.1 「ト・タラ」の相違に関する本稿の立場

「ト」と「タラ」の相違は「ト」は話し手が外部から観察者の視点で語るのに対し、「タラ」は話し手が実体験として認識して語るところにある(蓮沼1993)が、本稿では教える際はまず「タラ」のみ使うように指導する立場を取る。その理由として話し言葉では「ト」と「タラ」が両方使える文脈において「タラ」を使って誤用となる文脈がないと考えるからである。逆に(16)のように「タラ」しか使えないものがあるため、すべての文脈において「タラ」を使うように指導して問題ない(誤用・非文にならない)ということになる。

(16) 昨日10キロ {a.走ったら / b.??走ると} 2キロやせた。 (蓮沼1993:84)

以上のことより、本稿では「ト・タラ」を十分に運用できない中国語話者に教える際に話し言葉における「ト」と「タラ」の区別・使い分けはひとまず考慮する必要がないとする。

7.2 提示する例文及び留意点

説明する際に提示する例文は(17)～(20)が考えられる。「タラ」は主体が異なる完結性のある動作・状態の連続を述べる際に必要な形式であり、日本語では「テ形」ではなく「タラ」が義務的に選択されることを説明する必要がある。(17)のようなゼロ形式の例を提示し、前件と後件の主体が違えば「タ

ラ」を使い、「テ形」の使用は基本的に不可であることを伝えることが重要である。

- (17) 我問他的生日幾號，他說3月2號。
誕生日はいつと訊いたら、彼は3月2日と答えてくれた。
- (18) 我昨天搭電車的時候，遇到前女友。
昨日電車に乗ったら、元カノがいた。
- (19) 打電話給男朋友，竟然是女生接的。
彼氏の携帯に電話したら、女性が出た。
- (20) 昨天回家發現有包裹。
昨日家に帰ったら、荷物が届いていた。

(17) のような例をいくつか使って「タラ」の感覚が身に付いたら、次に“時”節 ((18)) とゼロ形式+意外性副詞の例 ((19)) を提示する。(18) (19) は前件と後件が異主体であることはゼロ形式と変わらない。“時”節の例で説明する際は「タラ」と「トキ」の相違を中国語話者に伝えると良い。そして、「タラ」が中国語の意外性副詞と同様の働きを持つため、産出の際はわざわざ中国語の意外性副詞を付ける必要がないということも伝える。そうすると1節で挙げた「テ形+意外性副詞」のような誤用 ((1)) は防げると考える。次に、ゼロ形式+知覚動詞の例を提示する ((20))。中国語の知覚動詞が使われる文では後件の主体も前件の主体と同じであるように見える場合があるため、中国語話者が「テ形」を用いて接続する可能性が大きい。例えば (20) の場合、「昨日家に帰って荷物が届いたのを発見した」のような文を作ることが予想される。ここでもう一度「テ形」と「タラ」の違いを説明するのが重要である。特に (20) では前件と後件はどちらも一人称の例であるが、後件は自分が行う意志的な動作ではないことに気づかせるのが重要なポイントである。

6節で述べたように「逆接」を用いても「前件と後件が異主体」及び「すでに起きた出来事」という事態を表すことができる。しかし「逆接」は (14) のように「予想に反した事態が起きる」場合に使用される点で「タラ」と異なる。中国語でも (21) (22) のように、「但」や“只”などの逆接を表す副詞がある。

(23) では逆接を表す副詞が使用されていないが、“還(是)…(沒有)”(依然として…(ない))という前件の事態の実現を否定するような表現が使われており、予想に反した事態であることが容易に理解できる。これらの表現が使われる場合は「逆接」の「が・けど」を使うように指導する。

- (21) 我叫他，但他沒有回應。
呼んだけど、彼は返事してくれなかった。
- (22) 打了三個小時的報告，只寫了一頁。
レポートを三時間書いたけど、1ページしか書けなかった。
- (23) 找了半天，還是沒有找到。
いろいろ探したけど、見つからなかった。

上記の例は中国語話者の語感に合致し、意味がわかりやすい。中国語の例を提示し、「ト・タラ」とはどのようなものかを意識させることが指導上重要なポイントとなる。

8 おわりに

本稿では、原文が日本語と中国語の小説を用い、「ト・タラ」と中国語の対応関係を検証した。その結果、約97%の対応率が得られた。「ト・タラ」に対応する中国語の表現に関する知識を中国語話者はすでに持っているため、その母語の知識を活用すれば、より効率的に「ト・タラ」を学習できると考える。最後に「ト・タラ」を適切に運用する力をつけるために提示する用例などを提案した。今後の課題として、日中対応関係に基づいた「ト・タラ」の全用法における中国語話者に特化した文法記述を行うことが挙げられる。

〈一橋大学大学院生〉

注

- [注1] …… 本稿では対応関係を見る際は「ト」と「タラ」の相違については考慮しない。理由としては「連続用法」や一部の例外（例（16））を除き、両者はほぼ同じ文脈で使えることと、7.1で述べるように教える際は「タラ」のみ教えれば良いという立場を取ることが挙げられる。また「ト・タラ」に対応する中国語の表現は「ト・タラ」のようにすみ分ける形式が存在しないためである。
- [注2] …… 多言語母語の日本語学習者横断コーパス（I-JAS）のストーリーライティングのデータから採集したもので、CCMは中国語話者による例を意味する。
- [注3] …… 砂川（2017）はI-JASのストーリーテリングのデータを用いて学習者の接続表現（順接表現）について考察している。
- [注4] …… これらの先行研究には「ト」と「タラ」の違いについての記述もあるが、注1で述べた通り、本稿では両者の違いについては考慮しないため「ト」と「タラ」の違いに関する先行研究の記述は割愛する。
- [注5] …… 前述の通り、ここでいう「ト・タラ」は「すでに起きた出来事を表し、前件と後件が異主体」の「ト・タラ」のことを指す。また、「ト」には前件と後件が同一主体による動作を表す「連続用法」があるが書き言葉でしか使われない。本稿では話す際の産出が目標であるため、「連続用法」は考察対象から外すことにする。また、「夜になったらみぞれは雪に変わった」（蓮沼1993）のように、前件が時間を表すものも考察対象から外すことにする。
- [注6] …… 用例出典は小説タイトルの頭文字で示す。詳細は用例採集資料に記す。
- [注7] …… 他にも「沒想到（思いもよらず）」「突然（いきなり）」といった生起時間の短さを表す副詞や、「卻（意外にも）」など、話者にとって意外であるといった心的態度を表す副詞を総称して「意外性副詞」と呼ぶ。
- [注8] …… 「ト・タラ」に訳されている例は4節の例と同様のものであるため、ここでは説明を省く。

参考文献

- 庵功雄（2015）「中国語話者の母語の知識は日本語学習にどの程度役立つか—「的」を例に」『漢日語言対比研究論叢』7, pp.165–173. 漢日対比語言学研究（協作）会・北京大學外國語學院日本語言文化系
- 庵功雄（2017）「第3部 発想編4 母語の知識を活かす」『一歩進んだ日本語文法の教え方1』pp.142–146. くろしお出版
- 加藤陽子（2003）「日本語母語話者の体験談の語りについて—談話に現れる事実的な「タラ」「ソシタラ」の機能と使用動機」『世界の日本語教育』12, pp.58–74. 国際交流基金日本語国際センター
- 小口悠紀子（2017）「談話における出来事の生起と意外性をいかに表すか—中級中国語話者と日本語母語話者の語りの比較」『日本語／日本語教育研究』8, pp.215–230. 日本語／日本語教育研究会
- 砂川有里子（2017）「第9章 ストーリーテリングにおける順接表現の談話展開機能」庵功

雄・石黒圭・丸山岳彦（編）『時間の流れと文章の組み立て 林言語学の再解釈』pp.183–215. ひつじ書房

- 園部（塩入）すみ（2013）「現代日本語の従属節選択と複文の類型について」2012年度熊本大学大学院社会文化科学研究科博士論文
- 豊田豊子（1978）「接続助詞「と」の用法と機能（I）」『日本語学校論集』5, pp.28–46. 東京外国語大学外国語学部附属日本語学校
- 豊田豊子（1982）「接続助詞「と」の用法と機能（IV）—後件の行われるきっかけを表す「と」」『日本語学校論集』9, pp.1–16. 東京外国語大学外国語学部附属日本語学校
- 中島悦子（2007）『条件表現の研究』おうふう
- 蓮沼昭子（1993）「「たら」と「と」の事実的用法をめぐって」益岡隆志（編）『日本語の条件表現』pp.73–97. くろしお出版
- 前田直子（2009）『日本語の複文 条件文と原因・理由文の記述的研究』くろしお出版
- 宮部真由美（2017）『現代日本語の条件を表す複文の研究』晃洋書房
- 李泓璋（2019）「（よ）うとする」に関する一考察—母語の知識を活かした日本語教育の観点から」『日本語文法』19(2), pp.51–65. 日本語文法学会
- 李光赫（2011）『日中対照から見る条件表現の諸相』風詠社
- 李光赫・張北林（2013）「関数検定から見たト条件文の日中対照研究」『国語学研究』52, pp.61–71. 「国語学研究」刊行会
- 李光赫・鄒善軍（2015）「中国語複文の有標と無標の捉え方から見るト条件文の日中対照」『国語学研究』54, pp.91–104. 「国語学研究」刊行会
- 渡邊亜子（1996）『中・上級日本語中国語話者の談話展開』くろしお出版

用例採集資料

a. 原文が日本語の小説／中国語訳本

- 高野和明（2007）『幽霊人命救助隊』文春文庫／李彦樺（2015）『幽霊人命救助隊』獨歩文化
- 西加奈子（2008）『きいろいゾウ』小学館文庫／婁美蓮（2013）『黄色大象』皇冠
- 湊かなえ（2010）『告白』双葉文庫／丁世佳（2010）『告白』時報出版
- 東野圭吾（2014）『ナミヤ雑貨店の奇蹟』角川文庫／王蘊潔（2013）『解憂雜貨店』皇冠

b. 原文が中国語の小説／日本語訳本

- 白先勇（1992）『孽子』允晨文化／陳正靨（2006）『げっし』国書刊行会
- 王文華（2000）『蛋白質女孩』時報文化／納村公子（2004）『蛋白質ガール』バジリコ
- 九把刀（2006）『那些年我們一起追的女孩。』春天出版國際／阿井幸作・泉京鹿（2018）『あの頃、君を追いかけた』講談社文庫
- 龍應台（2008）『目送』時報文化／天野健太郎（2015）『父を見送る』白水社
- 甘耀明（2009）『殺鬼』寶瓶文化／白水紀子（2016）『鬼殺し（上）（下）』白水社
- 李明益（2011）『天橋上の魔術師』夏日出版／天野健太郎（2015）『歩道橋の魔術師』白水社
- 王聰威（2016）『生之静物』木馬文化／倉本知明（2018）『ここにいる』白水社

